

新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発

プロジェクト期間内の成果概要

【現状・課題】

高齢者の自立生活に対する科学的評価の必要性

- ⇒信頼性・妥当性が確立された老研式活動能力指標(古谷野ら, 1986)
- ⇒健康水準の向上をはじめとする高齢者を取り巻く環境の変化
- ⇒上記指標の測定項目が**今日の高齢者**の実態にそぐわない

【研究開発目標】

“今日”の日本の高齢者に対応するための新指標の開発

⇒都市部・非都市部・全国を対象に調査・分析、一般性の高い新指標を開発

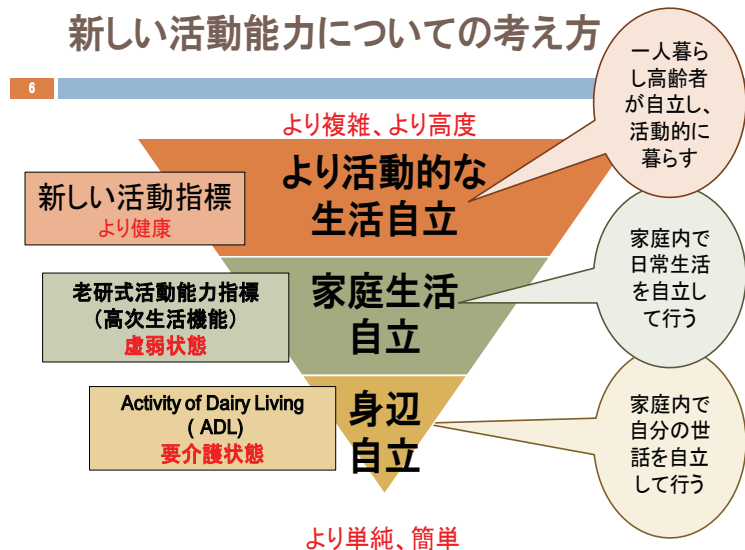
【対象コミュニティ】 東京都A区(都市部)
愛知県B市(非都市部)
2度の全国調査

【主要な関与者】 研究者、各分野の専門家

「学際的で、バラエティに富んだレクチャー」

- 1 高齢者のIT機器の利用実態と生活能力との関係
- 2 高齢者の就労を中心としたプロダクティビティ
- 3 老研式活動能力指標の開発過程と現代の課題
- 4 高齢者の社会貢献・社会参加に関する実態
- 5 高齢者の社会的ネットワークの実態
- 6 都市高齢者が日常的に交流する他者とは
- 7 社会活動に関する満足度の測定

新しい活動能力についての考え方



【開発した社会技術、成果(PJ実施期間中)】

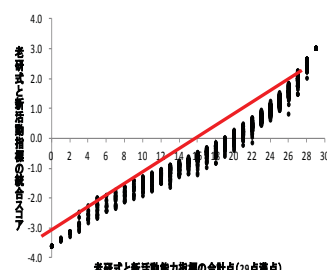
JST版活動能力指標/JST-IC(+マニュアル)の開発

因子名	項目	転載不可
社会参加	町内会・自治会で活動していますか	
	地域のお祭りや行事などに参加していますか	
	奉仕活動やボランティア活動をしていますか	
	自治会やグループ活動の世話役や役職を引き受けることができますか	
新機器利用	携帯電話やパソコンのメールができますか	
	携帯電話を使うことができますか	
	ATMを使うことができますか	
	ビデオやDVDプレイヤーの操作ができますか	
情報収集	教育・教養番組を視聴していますか	
	外国のニュースや出来事に関心がありますか	
	美術品、映画、音楽を鑑賞することができますか	
	健康に関する情報の信ぴょう性について判断できますか	
生活マネジメント	病人の看病ができますか	
	孫や家族、知人の世話をしていますか	
	生活の中でちょっとした工夫をすることができますか	
	詐欺、ひったくり、空き巣等の被害にあわないように対策をしていますか	

老研式活動能力指標と組み合わせることで



IADLに障害のある方から活動性の高い方まで様々な高齢者の活動能力を評価できる



「はい/いいえ」で回答し、「はい」の数が多いほど自立度が高い

お問い合わせ先

東京都健康長寿医療センター研究所
担当者 吉田英世 増井幸恵
TEL : 03 -3964-3241(代表)
e-mail : jstic@tmig.or.jp

プロジェクト終了後の展開と今後の展望

◎現在の展開(プロジェクト内外での広がり)

1. マニュアルの作成・配布
2. JST-ICの妥当性に関する調査研究
 代表性の高い集団での得点分布: **群馬県嬲恋村**
 認知機能・運動機能との関係: **兵庫県(伊丹市・朝来市) & 東京都(板橋区・西多摩郡)**
3. 地域介入での評価指標として導入
 住民との協働による介護予防のまちづくり介入研究: **東京都豊島区**

1. マニュアルの作成・配布

A4判、8ページ

- 内容: ①尺度の説明「何を測っているか」
 ②項目と得点計算手順
 ③全国標準値
 ④信頼性と妥当性
 ⑤Q&A(使用にあたっての注意事項)



3. 集団の全国標準値

2017年度調査(対象者: 65歳以上)調査結果(調査期間: 2016年10月~2017年3月) 本報
 本報は、調査結果をまとめたものである。調査結果は、調査結果をまとめたものである。調査結果は、調査結果をまとめたものである。調査結果は、調査結果をまとめたものである。

項目	性別	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上
認知機能	男性	23.12	22.12	21.12	20.12
	女性	22.12	21.12	20.12	19.12
運動機能	男性	2.12	2.12	2.12	2.12
	女性	2.12	2.12	2.12	2.12

2. 指標の妥当性の検証

群馬県嬲恋村: 代表性の高い集団での
得点分布の確認

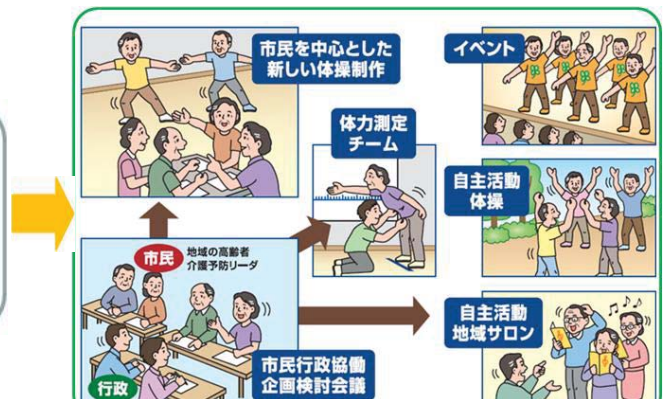
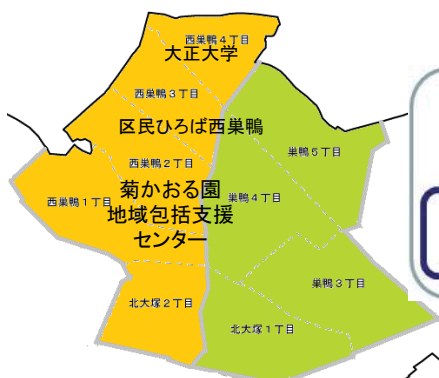
- ・研究代表: 東京都健康長寿医療センター吉田英世
- ・群馬県嬲恋村の2つの地区に在住する者 65歳以上高齢者(693名; 要介護者も含む)
- ・郵送調査+未返送者への訪問調査
- ・参加数(率)、606件(87%)

兵庫県(伊丹・朝来) & 東京都(板橋・西多摩): 実測データとの関連の検討

- ・研究代表者: 大阪大学権藤恭之
- ・対象者: 兵庫県と東京都の70歳、80歳地域高齢者1650名
- ・会場調査により実施
- ・実測変数: 認知機能(MoCA-J、記憶・推論課題)、運動機能(歩行速度、バランス、握力、ステップングなど)

3. 東京都豊島区: 「住民との協働による介護予防のまちづくりの効果検証のための地域コントロールトライアル」での活用: (厚生労働科学研究委託費長寿科学研究開発事業)

- ・研究代表: 東京都健康長寿医療センター大淵修一
- ・リーダー養成やまちづくり推進会議による住民主体の「介護予防のまちづくり介入」を実施し、健康寿命の延伸や高齢者の社会参加の促進効果があるかを検証する。



住民との協働による介護予防のまちづくりの例